

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	放課後等デイサービス・プロスペール					公表日 2026 年 4月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%			子どもの動線と機材スペースを明確に分離し、整理整頓（環境の構造化）を徹底する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		100%		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		相談室を確保	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		常に上司に指導を受けている。	課題: 自己評価結果の公表は行っているが、保護者以外（地域等）への周知がまだ限定的。 改善点: ホームページ等で自己評価結果だけでなく、改善計画の進捗も定期的に発信する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		部内研修会、部外研修	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			課題: 日々のミーティングは行われているが、客観的な「評価指標」が主観に寄る可能性がある。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			改善点: 外部評価や第三者視点を定期的に取り入れ、自己評価とのギャップを確認する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			課題: 氷山モデル等を用いた深い分析を、計画書のフォーマットに落とし込みできていない。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			改善点: 計画書に「行動の背景（氷山モデルの視点）」を明記する項目を設け、専門性を可視化する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		選択遊び、戸外活動の機会を設けている話し合ったことを報告書にまとめている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		子供たちの様子を見ながら時間変更などを行う	課題: 「目田選択」か、特定の好む活動(ゲーム等)への回執に繋がっていないかの検証が必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			改善点: 選択肢の中に「新しい体験」をモデルステップで組み込み、興味の幅を広げる工夫を強化する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	60%	40%	時間があれば、即日実施、翌朝ミーティング前	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		自分たちのノートに書いて、ふり返りのできる	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%			課題: 個別でのIT活動が中心となり、集団の中での「譲り合い」等の経験機会が相対的に少ない。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			改善点: IT制作を通じたペアワークや、共同作業プロジェクトを意図的に設定する。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%			
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	100%			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				課題: スタッフの心理的余裕は保たれているが、不適切な関わり(不適切な言葉掛け等)の基準の再確認。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。				改善点: ヒヤリハットだけでなく「言葉掛けの振り返り」をミーティングの議題に定期的に入れる。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%			
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		毎朝のミーティングで共通理解を図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			課題: SNSでの連絡が「事務的な報告」に偏り、療育的な意図の解説が不足する場合がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			改善点: 活動写真に「この活動のねらい(ABA的視点)」を一言添える習慣を全スタッフで徹底する
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		100%		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			課題: 満足度は高いと推測されるが、不満や要望を「匿名」で拾い上げる仕組みの強化。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%			改善点: SNS以外の匿名アンケートや、第三者委員の設置などの苦情解決システムを再周知することを工夫する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	44	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%		課題: IT機材の多い環境特有の火災リスク（リチウム電池等）や、地震時の機材転倒防止。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			改善点: IT事業所に特化した防災マニュアルの策定と、機材の耐震固定の再点検
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			課題: デバイスの共有（マウス、キーボード等）による接触感染のリスク管理。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			改善点: 機器の消毒ルーチンの明確化と、子どもたちへの衛生指導（手洗い徹底）の習慣化。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			課題: 代表の知識（モンテッソーリ等）をスタッフが「実践」レベルまで習得するための研修時間。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			改善点: 外部研修への参加支援に加え、社内での「事例検討会（ケーススタディ）」をより構造化して実施する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			朝のミーティング等で共有し、改善策を話し合い、実施している。